

Vent

音楽教育 ヴァン

vol. 53

巻頭インタビュー

大栗博司

人生をより豊かにするための“言葉”としての数学

スプリングセミナー2024

新作合唱曲による公開講座

参考楽譜

混声合唱『桜、ってきます』

(作詞・作曲: 前山田健一 編曲: 富澤 裕)





未来の記憶を創る仕事

3年半ぶりに、インタビュー調査を再開した。対象は昭和一桁以前のお生まれ、90歳を超えるような方々である。戦前・戦中期に学校で教わり、儀式で歌った唱歌を中心に、当時の学校の様子を聞かせていただいている。

《天長節》《紀元節》《勅語奉答》などの儀式唱歌は、戦後75年以上にわたって、歌われることも聞かれることもなく、存在を忘れられている。そのため、曲名をお伝えしても「覚えていない」とおっしゃる方も多いのだが、私が歌い始めると表情が変わり、口を動かそうとし、次第に声を出して唱和される場面に何度も遭遇してきた。長い歳月を経て、人生の記憶の古層から歌が口をついてよみがえる。その驚きは、聞き手以上にご本人のほうが大きいようだ。

娘や息子にも話したことはない、思い出させてもらって、歌えてよかったと感謝されることもある。現代からみれば、国家主義の思想を植え付ける歌でしかないのだが、子どものころ意味もわからずに歌った（歌わされた）歌は、身体の記憶として密かに、しかし確かに宿っていた。

今、子どもたちに教えている歌が、何十年かの後にも身体に刻まれているかもしれない。つまり、私たちは未来の記憶を創る仕事をしているのだ。この歌が呼び覚まされるとき、「今」はどのように振り返られるのだろうか。未来の記憶への想像力を、見失わないでいよう。

有本真紀(立教大学 教授)

Contents

- 3 | 巻頭インタビュー
大栗博司(物理学者)
- 8 | 授業者に訊く①
中野文大(長崎県立長崎東高等学校 教諭)
- 13 | 授業者に訊く②
佐々木保高(春日市立春日西中学校 主幹教諭)
- 18 | スプリングセミナー2024
新作合唱曲による公開講座
- 20 | Kyogei Presents
音楽診断
[第18回] 交響曲の緩徐楽章編(監修・解説:山田治生)
- 22 | Information
- 24 | 参考楽譜
混声合唱『桜、ってきます』(作詞・作曲:前山田健一 編曲:富澤 裕)
- 34 | エッセイ
新・音から広がる世界 [第13回] 藤原道山

*本誌に記載されている職名は令和5年8月現在のものです。



Hiroshi
Ohtsuka

巻頭インタビュー

人生をより豊かにするための

“言葉”としての数学

物理学者

大栗博司

聞き手

ヴァン編集部

「数学も音楽も何かを表す“言葉。”——物理学者として素粒子論の研究をされている大栗博司先生はこうおっしゃっています。著書『数学の言葉で世界を見たら』の中で、数学を“言葉。”として学ぶことのおもしろさを伝えてこられた大栗先生。本インタビューでは、一種の“言葉。”である数学の捉え方、そして数学と音楽とのつながりや共通性などについて、これまでのご経験や研究者としてのお考えとともにさまざまに語っていただきました。

人工的で普遍性の高い言葉

Vent (以下、V)：大栗先生が執筆された『数学の言葉で世界を見たら』を興味深く拝見しました。もともとは10代の子どもたちに向けて語られたお話がベースになっているそうですね。

大栗：いろんな言葉を話せると世界が広がるという話を子どもたちにしました。人間は言葉があるからこそ、世の中のことがよく理解できます。例えば、これがコップであるとか、お茶が入っているとか、名前が付くことで、そういうものだと認識できるようになる。世界にはいろんな言葉があって、日本語もあれば、英語もあって、各々の言葉は、その地域や歴史の中で発達し、その土地の人の見方を表しています。違う言葉を話せるようになることで、新しい物事の見方を学ぶことができる、ということを伝えたいと思いました。

V：それで、「世界が広がる」とおっしゃったんですね。『数学の言葉』とはどのようなものか、あらためてお話いただけますか？

大栗：数学とは、ある意味で人工的なものです。それが1つ重要なところだと思います。まず誰もが認めるような定義や仮定から始めて、厳密な論証でその物事の背後にあるパターンであるとか、普遍的な真実を明らかにしていく。そういう議論の仕方、作法のようなものを数学と呼んでいるんです。

V：『数学の言葉』にはどのようなメリットがあるのでしょうか？

大栗：『数学の言葉』が他の言語と大きく違う点は、物事を一般化する、普遍化する力が強いことだと思います。この400年ぐらいの間に科学革命が起こり、科学や技術が進歩してきて人間の経験世界はものすごく広がりました。例えば宇宙の様子などもよく分かってきて、宇宙が138億年前に始まったとか、そのくらい遠くのところまで見えるようになる一方で、ナノの世界やナノのさらに2乗の世界など、ミクロの世界まで分かるようになり、既存の言語では表現できない経験世界が広がってきたわけです。そういうときに数学での表現が

非常に役に立ちます。

V：なるほど。『数学の言葉』によって、より幅広い世界のことを表せるようになるんですね。

大栗：例を挙げると、小学校で習う鶴亀算では、鶴も亀も足が4本だったと思ってみようなど不自然な仮定のもとで論証していきますが、中学校で習う連立方程式では、そんなややこしいことを考えず機械的に解いて鶴と亀の数が分かります。そうした数学ができてくると、他のいろんなことにも使えるようになります。連立方程式の理論（線形代数）も、AIやマシンラーニング、また最近注目されている量子コンピュータなど様々な科学技術の基礎となっています。

V：私たちの身近なものにも数学が応用されているのですね。

大栗：そうです。なぜ応用力が高いかというと、数学に普遍的な真理を求めるという志向があるからだと思います。数学には純粋数学と応用数学があり、応用数学は決まった問題に答えるための数学をつくっていく学問ですが、純粋数学はもっと抽象的なものです。この世の中にあるようないろんなパターンであるとか性質などの中から、何か普遍的なものを見抜き、その中に数学的な真実を見いだすのが純粋数学です。純粋数学は、非常に幅広い範囲に使い、その数学ができたときには想定していなかったような応用ができる。例えば古代ギリシャ、古代バビロニアの人がその連立方程式を解いていたとき、21世紀になって、AIや量子コンピュータに使われるとは思っていなかったはずです。

使ってみて、好きになることが大事

V：数学的な見方・考え方を自分の中に取り入れていくためには、どのようなことから始めることが大切とお考えでしょうか？

大栗：言葉ですから、英語を習うときに文法や単語を覚える必要があるように、数学の場合も数学の論証のルール、そこに出てくる定義や仮定を把握し、どのように導かれているかを理解する必要があります。だけど、英語でもなんでも言葉を学ぶためには使ってみないといけませんよね。だから、数学をいろんなことに使ってみるのも大事で、ただ抽象的にそのルールを勉強するだけではなく、使ってみて、それをやるのがおもしろいと感じられるようになってよいですね。答えだけを覚えたり、導き方を覚えたりするというのでは、や



取材は2023年5月31日、東京大学カブリ数物連携宇宙研究機構研究棟で行われた



● 大栗博司(おおぐり・ひろし)

東京大学国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構(Kavli IPMU) 機構長。カリフォルニア工科大学フレッド・カブリ冠教授およびウォルター・パーク理論物理学研究所所長。アスペン物理学研究所理事長。理論物理学における業績に対し、紫綬褒章、仁科記念賞、アメリカ数学会アイゼンバッド賞、ドイツ連邦共和国フンボルト賞、グッゲンハイム・フェローシップ等を受賞。アメリカ芸術科学アカデミー会員。科学監修を務めた3D映像作品『9次元からきた男』は、国際プラネタリウム協会最優秀教育作品賞を受賞し、6か国語に翻訳されて世界各地で公開されている。

はり数学のおもしろみが分からないと思うんです。

V：大栗先生は、いつ頃から数学のおもしろさに気付かれたのですか？

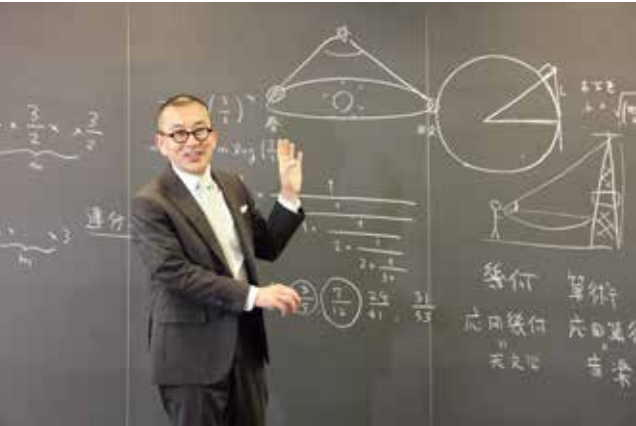
大栗：小学生の頃の経験がきっかけです。よく週末に両親と遊びに行ったビルがあって、その12階の展望回転レストランでお昼ご飯を食べるといのが定番でした(笑)。12階だと外の景色が遠くまでよく見えて、あるとき、地平線まではどのくらい離れているのが気になりました。小学校5年生か6年生ぐらいでしたが、ちょうどその頃に三角法とか図形のいろんな性質を習って、それを応用して地平線までの距離を考えてみたんです。(図で説明しながら)地球があって、ここにビルがあって、その上にいるとすると、地平線はまっすぐ見て地球に接するところです。その距離が知りたい。三角形の相似の考え方を使えば、地球の半径とビルの高さを掛けて、平方根を取るとおおよその長さが分かるだろう、と。正確ではないですが、だいたい値は分かります。しかし、計算に必要な地球の半径が分からない。そこで、逆に地平線までの距離が分かれば地球の半径が分かるだろうと思って、父に聞いてみると地平線まで20kmぐらいだと。ビルの高さも見当がついたので、計算式に当てはめていって……。つまり、レストランで食事をしている間に地球の半径を導くことができたのです。家に帰って百科事典で調べてみたら、

数学も音楽も、自然言語では表現できない抽象的・普遍的もしくは情緒的な世界を表現する『言葉』といえますね。

桁数ぐらいは合っていました。地球の大きさが分かるって、なんだかすごい話じゃないですか(笑)。数学を使うとそんなことが分かるんだ、ということを経験し、もっと勉強してみようと思えるようになりたいと思ったわけです。

V：探究心とそこに向けて実践してみることが大事になってくるんですね。新しいことを身に付ける場合、慣れないことであると、苦手意識を感じる人も少なくないと思います。そうした苦手と向き合う際に何かアドバイスはありますか？

大栗：それは難しいですね(笑)。得意になるやり方というのは、だいたい、一通りしかないですね。そのことが好き



黒板に図や数式を書いて説明する大栗先生

になって、好きだからやる。苦手になるやり方はたくさんあると思うんです。トルストイが「幸福な家庭は全てよく似たものであるが、不幸な家庭は皆それぞれに不幸である」というようなことを言いましたが……。全ての苦手に当てはまるような、統一的な処方箋というのはなかなかないと思います。やはりおもしろいと感じるとっかかりになることを何か1つ見つける必要があるのではないかなと思いますね。



アスペンでの経験

V: 少し話は変わりますが、音楽と絡めたお話も伺いたく思います。大栗先生はどのような音楽をお聴きになりますか？
大栗: 私は、だいたいクラシックを聴きます。自分では演奏できないですが、私の娘は小さいときからヴァイオリンを始めて、今でも続けています。ですから、音楽の勉強をしている人も身近に見てはいます。
V: 好きな作曲家はいますか？
大栗: 好きな作曲家はたくさんすぎて答えにくいのですが(笑)。メシアンはわりと好きです。あとコープランドも。『アパラチアの春』とか大好きですね。それから、もちろんバッハ。数学をやっている人はバッハを好む人が多いですね、あとモーツァルトとかね。
V: それは構造の美しさというところからなのか、それとも純粋に聴いていて感じるのでしょうか？
大栗: バッハだとあまりに数学と近すぎて、それだったら数学をやったほうがいいかなと思うこともあります(笑)。メシアンはちょっとそれだけでは掴みきれないものがあると感じます。メシアンは音楽を聴くと色が見えるという共感覚をもっていたり、鳥類学者のような側面もあったりして興味深い作曲家ですね。
V: バッハが数学的すぎるというのは先生ならではの言葉



で非常に興味をかき立てられます。他に音楽との関わりはございますか？
大栗: 今、私はアスペン物理学研究所 (Aspen Center for Physics) の理事長をしており、その建物の隣にコンサートホールなどを備えた施設があります。そこでアスペン音楽祭 (Aspen Music Festival And School) が夏の間だけあって、世界中から優秀な音楽の先生を集めて授業やいろんな演奏会が開催されます。昨年夏、私も「サイエンス・オブ・ミュージック (音楽に潜む科学)」という題で、講演をしました。
V: どのような内容のお話をなさったのですか？
大栗: 一つは音階の話です。音階と数学との関わりにおいては、ピタゴラス音階が挙げられます。これは逸話ですが、ピタゴラスが鍛冶屋の前を通りかかったら、キンコンカンコンと鉄を打つ音が聞こえて、鉄の長さがちょうど倍になるとよくハモることに彼は気付く。さらに、長さの比が、79:317とかではなく、2:3とか3:5とか、わりと単純な比で表せるようなときによくハモるということも分かった。それを使って、いちばんハモリがよい音階をどうつくったらよいかを考えてできたのがピタゴラス音階です。ただこれには問題があって、全ての音程をうまくハモるようにするのはなかなか難しい。例えばある長さの弦があって、それを半分にしたら1オクターヴ高い音が出ますよね。それを今度3分の2にすると、それもよくハモる。じゃあ、それをまた3分の2にしていてあるときに倍音か、その4倍音になれば閉じるので、それで音階をつくったらよいんじゃないかと思ったら、いつまでやっても閉じないんです。そこでピタゴラスは、近似的に、ほぼ等しいようにできないかを考えて、12音階にすればよいということに気が付いたんです。
V: なぜ音階が12音なのかは、ここに由来しているのですね。
大栗: このよい近似を見つけるために、連分数という考え方があるのですが、実はすごくいろんなことに役に立つんです



よ。例えば、音階だけでなく暦をつくることもできます。連分数を使えば、どんな数でもそれをいちばんよい近似の分数で表すことができます。そこで、音楽祭の講演では、ピタゴラス音階の話からはじめて、連分数のいろいろな性質についてお話ししました。

共通するのは、“パターン”と“時間”

V: 例えば数学的な思考が作曲に使われたり、数学的な理論を応用した楽曲分析があったりするように、音楽の美しさと数学との因果関係を、先生はどのようにお考えですか？
大栗: 私は音楽の理論にはあまり詳しくないですが、1つ言えるのは、数学も音楽も何かその既存の言葉では表せないことを表したいということです。数学の場合、もっぱら対象は正確に表せるもの。図形や数字のように、普遍的なパターンや性質を見いだしていく言葉です。一方で音楽は、普通の言葉ではうまく表せない人間の情感とか、思いみたいなものを音やメロディーで表現する1つの言語といってもよいのではないのでしょうか。共通しているのはパターンであると思います。音楽においても、パターンや構造が非常に重要になってきますよね。特に音楽は絵画と違って静止しているものではなくて、時間と深く関わっている。
V: 数学のパターンにも時間が関係しているのですか？
大栗: 数学の証明においては、最初に定理を書き、次に定理を主張し、そしてどう仮定するか、というように直線的に進んでいちばん最後に証明として到達する。そういう数学のロジックがもつリニアな面は、音楽が時間につた芸術であるということに対応しているようです。

抽象的な世界の探訪

V: 数学も音楽も時間の流れの中で展開していく、ある種のストーリー性があるということですね。定理から始まって証明していくような数学的な思考の中で、どの瞬間にいちばん充実感がありますか？
大栗: 数学をやっていておもしろいのは、新しい真実を発見できるということです。これまで人間が知らなかった新しい定理や、これまで見えていなかったような普遍的な世界が見えるようになる。定理を証明していく中で、もちろん定理を完成させたときもそれはそれで喜びがありますが、幾つか難所があって、それを乗り越えられたときは、特に達成感がありますね。証明に取り組んでいるときに、ハイ

キングをしているようなところがあって、山あり谷ありで、迷い道に入り込んでしまうことも多いですが(笑)、それがあるところまで行くと、パッと展望が開けてくる。ああ、こういうことだったのかと分かるところがおもしろいですね。数学の世界というのは、そもそも勝手に僕らがつくった仮定や定義に基づいて論証していくので、この現実の世界に使えるときもありますが、抽象的な世界を歩き回っていることも多いんです。作曲にもそういう印象があります。音楽は何か抽象的な空間の中に構造物を立てていく作業というところがあるのではないのでしょうか。
V: それは、数学の美しさとも関係していると感じられますか？
大栗: そうですね。まあ、数学の美しさが何かというのは難しいですけど、1つはより普遍的なものが見つかるということです。鶴亀算を解こうとして考えられた連立方程式が、今ではAIや量子コンピュータに使われ、非常に普遍的にこの世の中に存在する。ある定理を定式化するときも、その対象にしか使えない定義をつくるのではなくて、広がりのある、普遍的に役立つようなものが美しいと思います。
V: ありがとうございます。最後に、子どもたちに向けてメッセージをお願いします。
大栗: いちばん伝えたいのは、やはり新しい言葉を学ぶことは、新しい世界の見方を手に入れるということです。言葉というものは、そもそも意味のなかったこの世界に意味を付けるということ。それが違う言葉であれば、僕らが共有しているこの同じ世界に違う意味がついてくるということだと思えます。数学は、そうした言葉の中でも、自然言語(日本語や英語)のように長い歴史の中でできたものではなくて、もっと人工的なものです。人工的なものであるだけに、世界のことをより精密に深く表現することができ、世の中のより深い意味が見えてくる。数学を言葉として学ぶことで、人生がより豊かになることを伝えたいですね。

書籍情報

数学の言葉で世界を見たら 父から娘に贈る数学



大栗博司 著 幻冬舎
 定価(本体1800円+税)

その他に『重力とは何か』『強い力と弱い力』『探究する精神』(いずれも幻冬舎新書)、『大栗先生の超弦理論入門』(ブルーバックス、講談社科学出版賞受賞)、『素粒子論のランドスケープ1・2』(数学書房)などがある。



『Caro mio ben』は丁寧な音読から

授業者に訊く

1

長崎県立長崎東高等学校



中野文大先生(授業者)と佐野靖先生(聞き手)

長崎市の中心部に近い高台に位置する、長崎県立長崎東高等学校を訪ねました。古い歴史をもつこの高等学校は、平成16(2004)年から中高一貫校となり、多くの生徒たちが学んでいます。今回は、高等学校1年生による『Caro mio ben』の授業を参観しました。イタリア語による歌唱表現に、生徒たちが生き生きと取り組んでいます。

授業者: 中野文大(長崎県立長崎東中学校・高等学校 教諭)

聞き手: 佐野 靖(東京藝術大学 教授・副学長)

本時の授業の位置付け

○題材「曲にふさわしい発声で表情豊かに歌おう」

○本時のねらい

『Caro mio ben』の歌唱を通じて、曲想と音楽の構造や歌詞との関わりを理解するとともに、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、イメージをもって歌唱表現する。

授業の流れ

学習の内容・学習活動	
導入	○常時活動 ソルフェージュ「音符を読む練習」「メロディーを階名で歌う練習」 ○歌う準備 隣の人の肩をたたいてほぐしたり、伸びをしたりして、ウォーミングアップする。
展開	○本時の学習目標を確認する。 ○愛唱歌を歌い、歌い方や発声を確認する。 ○『Caro mio ben』前半の歌詞をイタリア語で音読する。 ○発声練習する。 ○『Caro mio ben』前半までを歌う。→出だしの音の高さを意識する。 ○歌詞の後半をイタリア語で読む。 ○最後まで歌う。→“Cessa,”の表現、装飾音符の意味、最後のフレーズのクレシェンドの意味などについて特に考えてみる。
まとめ	○全体を通じてイタリア語の単語それぞれの意味を理解し意識する。 ○歌詞の内容や楽曲の背景を理解し、曲想を捉えて歌う。 ○次回からはギター学習。

イタリア語の言葉の意味を伝える、歌唱活動

音楽教師一人の中高一貫校

佐野: 今日はどうもありがとうございます。大学院で指導している学生から、「すばらしい先生が母校にいらっしゃる」と聞いたことが今回の訪問のきっかけでしたが、実際に授業を見せていただいて、本当に来てよかったと思います。

中野: ありがとうございます。生徒より僕自身が緊張してしまいました。

佐野: ここは中高一貫校ですが、音楽教師は中野先生お一人で、部活も含めるとたいへんお忙しいですね。

中野: 今、中学生は全員教えていて、3学年9クラスをそれぞれ週1時間。高校は1年生の芸術(音楽・美術・書道の選択)が週2時間で、今日ご覧いただいたのは1・2組の合併クラスで、それが3クラス分あります。高2・高3は音楽の授業がありません。だから、担当時間数そのものは普通なのですが、中1から高1まで4学年教えているので、曜日によっては全学年の授業があります。その点が厳しいですね。

佐野: 同じ日に中1から高1までですか…。それは大変ですね。高1で音楽の授業が最後になるということで、特別な配慮はありますか？

中野: 締めくくりはクラスコンサートです。最後の思い出づくりとして、自分

の好きな曲や表現方法を選んで、ソロでやってもグループを組んでやってもいいから、思い切って発表して終わろうという企画です。

佐野: 吹奏楽部は何人ぐらいいるんですか？

中野: うちは少ないんです。今、高1は10人だけで、中高合わせてやっと50人ぐらいの規模になります。コンクールは、中学生を入れて高校の部に出ています。その代わり管楽合奏コンテストでは、中学生だけの経験もさせています。音楽の授業は高1までですが、部活では高3まで6年間の成長を見ることができるところがおもしろいですね。

体で分かることの重要性

佐野: とてもエネルギッシュで楽しい授業でした。常時活動から『Caro mio ben』の歌唱まで、いろいろな活動がスピーディーに展開される授業で、あらためて体で分かることが大切な教科なんだと実感させられました。音楽って体で実感していかないと、本当の意味でその楽しさが分かりませんね。生徒は活動する中で、自分なりにいろいろな学びを経験しているのだと確信します。

中野: 盛りだくさんの活動に加え、立ったり座ったりの繰り返しで、生徒は多少疲れたかもしれませんが…(笑)。

佐野: 心地よい疲労感だと思います。先生の言葉によって生徒の身体感覚が呼び起こされ、表現がどんどん変わっていく。そうした場面がたくさんあって、見ている自分もわくわくの連続でした。

中野: ありがとうございます。中学校から上がってきた内部進学生と高校から入学してきた生徒が混ざっていますが、総じてよく活動してくれるので助かっています。

佐野: そうした生徒の主体性を引き出しているのは、中野先生ご自身が表現者となって実践し、自分の言葉で思いを語っているからだと思います。

中野: 歌唱に関しては、それぞれ自分たちで活動させることもありますけれど、まずはちょっと僕が思っていることを伝えて、といったことが多いですね。

佐野: それが押し付けではなく、提案であったり選択肢の一つであったりしていて、一人一人で考える場面や隣、前後の生徒と話し合う場面の、ヒントや取っ掛かりになっています。教師からの効果的な働きかけがないと、生徒は何をどうしたらよいか迷ってしまいますよね。

中野: 学校全体でアクティブラーニングの研究に取り組んでいるのも大きいと思います。活動の時間と説明する時間のバランスや、その順番、もっていき方なども大切です。なかなかうまくはいきませんが、常にそういったことを考えながらやっているつもりです。

佐野: 巻き舌(タンゴトリル)の秘密の練習方法も興味深かったですね。たぶん家に帰って、生徒たち、あれやりますね。

中野: 自分も本当にできなくて苦労したから、妙に説得力があったかもしれません。できなかった経験が役に立っています。

音は見えないからこそイメージが大事

佐野: 生徒がイメージしやすい言葉の数々も印象的でした。例えば、曲の出





出だしの音の高さを、体を通じてイメージする

だしのDの音にしっかりと当たるように、音の高さをイメージさせていました。

中野：音は見えないからこそ具体的なイメージをもつことが大切になります。あの場面では、Dの音が自分の体のどの辺の高さなのかを意識させ、目線より少し上の辺りの空気を取り込むよう伝えました。

佐野：「口の中の天井を高く」といった表現も、口腔内をイメージさせるのにとっても分かりやすい言葉がけでした。「息」に関する指摘は、授業全体を通して多かったですね。

中野：息遣いの工夫は、歌唱だけでなく、器楽や音楽活動全体においてたいへん重要です。高い音域を歌う際、「息のスピードを上げて」と言ったのは、リコーダーの指導のときにも用いた表現だったので、関連付ければ分かりやすいかなと思いました。

佐野：レガートが足りないところでは、「息の流れにのって」というひと言によって生徒の歌声が変わり、フレーズが滑らかに、のびやかに表現できるようになりました。頭で理解すること、イメージして体で実感することを、中野先生の言葉がつかないでいたと思います。

中野：いやあ、言葉として伝えるの

は難しいです。

佐野：先生ご自身が実感しているこの曲のよさを、何とかして伝えたいという思いから発せられた言葉や懸命の身振りは、しっかり生徒に伝わっていました。

中野：ありがとうございます。

徹底した教材研究

佐野：『Caro mio ben』に対する先生の教材研究のすごさに本当に驚きました。毎年扱う教材ですか？

中野：はい、この曲は、もうずっと取り扱っています。特に、前の学校のときに『Caro mio ben』で県の研究授業をやったことがあって、そのときに自分なりに研究し、いろいろ学びました。その頃に今のような教え方のスタイルが出来上がったといえるかもしれません。ただ、毎年生徒は変わるので、常に「こういうふうに伝えたら生徒の歌声はどう変わるかな」と確認、振り返りを繰り返しています。「じゃあ、こういう投げかけ方をしたら効果的なんだな」



○ 佐野 靖(さの・やすし)
東京藝術大学 教授・副学長

といった新たな気付きもいっぱいあります。この曲から本当に多くのことを学ばせてもらっています。

佐野：長年教えていても新たな発見や気付きがあるということは、もちろん生徒が変わるということが大きいのでしょうが、それだけ奥の深い曲といえますね。

中野：本当にいろいろなことを伝えられる教材です。

佐野：強弱の幅も広いし…。「なんでpppなんだろう?」「装飾音の意味は?」と問いかけた場面もおもしろかったですね。

中野：どう感じるか、どう思うかには正解はありませんから、できるだけ生徒たちの想像が広がるよう心がけています。いろいろな意見が出たあとで、「せっなさ、いとおしさが増す」とか、「装飾音はすすり泣きを表しているのでは?」といった自分の感じ方は伝えましたが、あくまでこれも意見の一つであるといつも言っています。

佐野：そう、*p*を「弱い」とだけ覚えていても、音楽的な表現にはつながりにくいですね。人は大事な話や内緒で秘密の話ほど小さな声で話しますし…。「せ



○ 中野文大(なかの・ふみひろ)
長崎県立長崎東中学校・高等学校 教諭



テンポよくウォーミングアップし、歌う体勢を整える

つない思い」なんて、なかなか大声で言えるもんじゃないですよ(笑)。

中野：歌詞と音楽との関係についても、アプローチしやすい教材です。

佐野：タイトルの歌詞が何度も出てきて、どう歌い分けるかと考えるだけでも、音楽における反復の意味に迫ることができますね。最後のフレーズも、なぜこのような終わり方なのかを考えさせていました。

中野：ここは少し難しそうだったので、「それでもあなたへの思いをもち続けたいという気持ちの表れかもしれない」と、自分の解釈を伝えました。もう少し時間があれば、もっと生徒の解釈を引き出せたかもしれません。

佐野：そうした解釈と、下行音型を「体を広げるイメージで」という技能面での指摘とがうまくマッチして、最後のフレーズの歌い方が変わりました。ところで、教科書では次のページに、「主体的・対話的で深い学び」に向けて、『Caro mio ben』を分析する「大解剖!」という特集が掲載されています。中野先生は、まず楽譜を通して生徒が自分なりに音

楽そのものと向き合うことを大事にされていました。分析のポイントのページは少し紹介された程度でしたね。

中野：分析の観点やポイントを知るには、とても有効なページだと思います。僕の場合、この曲に関しては参考程度に見るようにして、実際に表現するのは生徒たちなので、「生徒一人一人が自分の表現にどう生かしていくか」につなげられればいいかなと思っています。

佐野：「生徒一人一人の表現を大事にしたい」という先生の思いは、リタルダンドやフェルマータの部分で「この曲は独唱曲なんだから、自分なりの間合いとか、感覚でいいんだよ」というのを強調されていたところにも感じられました。

中野：生徒は協調性が高くて、どうしてもみんなに合わせようとする意識が強いものですから、他人のことではなく、自

分の意思をもつことだ、と。合唱曲とはまた違う独唱曲の魅力みたいなものを伝えたいと思っています。

佐野：ところで、先生はいわゆる教育が困難といわれるような学校での指導経験はありますか？

中野：あります。それこそ生徒指導が大変な学校に勤めたこともあります。

佐野：そうした学校では、特にどんなことに留意しながら指導法など工夫されていましたか？

中野：どこの学校でも、とにかくしっかり活動してほしいと願っているの



教科書の「大解剖!」を参考に意見交換



常時活動として一斉に取り組むソルフェージュ

この生徒たちにはどのような教材が合うのか、まずは教材選択が重要で、その次にどう教えるかとなると、やはり教材研究をしっかりと行うことが大切だと思っています。

授業として受けてみたいと思うような上手な生徒の発表もあります

佐野：年間を通して、生徒の自主性に任せるような授業は、クラスコンサート以外にもありますか？

中野：はい、あります。例えば、生徒は1人1台タブレットを持っているので、教科書に載っている舞台芸術、オペラやミュージカル、日本の伝統音楽などの中から、それぞれ気になるジャンルを選び、グループをつくって調べ学習を行います。そして最後に、選んだ舞台芸術の魅力や特徴なり、代表的な作品のよさなりを発表するわけですが、みんななかなかのもので、中には「もう僕が授業するよりも、そのままあなた方が授業してよ」と言いたくなるぐらいすばらしい発表もあります。

佐野：題材としては、どれぐらいの時

間をかけていますか。

中野：6時間ぐらいですね。コロナ禍でもあったので、調べ学習をするグループと、演奏や発表の練習をするグループとに教室を分けて、2つの題材を並行してやったりすることもありました。じっくり調べる時間を取って、みんなの前で発表させる活動は、教師にとってもとても刺激的でよかったですね。

佐野：今の生徒たちは、プレゼン、うまいですね。

中野：そう、とっても上手です（笑）。

特にこの学校は、探究活動にすごく力を入れていて、WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）の拠点校にもなっています。調べ学習をして、みんなの前でプレゼンするのは、それこそ中学生のときから経験してきていますので。

佐野：音楽の教科は、そこには絡んでいないのですか？

中野：そうですね。「総合」や「探究」自体に音楽科は特に絡まないんですけど、そこで培った力が、音楽の授業の中でも生きて働いていると思います。

校長先生より

長崎東中学校・長崎東高等学校は旧制中学を前身とした歴史と伝統をもつ学校で、中学校を併設する併設型中高一貫教育校です。

本校は、多様な文化の交流拠点として繁栄した歴史とともに原子爆弾の被害から復興した長崎の学校として、「自らの可能性を高め、多様な価値を尊重し、平和で豊かな未来社会を協働して創り出す人材を育成する」ことを目的として日々の教育活動に取り組んでいます。

中野文大先生は、音楽を通してこのことを希求してくださるとともに、吹奏楽部の顧問として「音には生命（いのち）がある」を合言葉に、子どもたちと理想の音、理想のハーモニーを求め続けてくださっています。

立木貴文 先生
長崎県立長崎東中学校・
長崎東高等学校 校長



全員で『浜辺の歌』を歌唱する

授業者に訊く 2

春日市立春日西中学校



菅 裕 先生（聞き手）と佐々木保高先生（授業者）

次にご紹介するのは、福岡県の春日市立春日西中学校1年生の『浜辺の歌』の授業です。元気な挨拶で始まった授業はそのはつらつとした雰囲気のまま展開され、音楽室には生徒の明るい声が飛び交います。生徒たちはタブレット端末の音源に耳を傾け、自身の感情とリンクさせながら曲のイメージを膨らませる活動に取り組んでいました。対談では、佐々木保高先生が授業で大切にされていることなどについて、お話を伺いました。

授業者：佐々木保高（春日市立春日西中学校 主幹教諭）

聞き手：菅 裕（宮崎大学 教授）

本時の授業の位置付け

〇めあて「いろいろな散歩の様子をイメージしよう。」

本時の内容は『浜辺の歌』の歌唱の4時間目（全4時間）にあたり、アレンジ版の旋律を聴き味わう活動を通して、音楽を形づくっている要素を聴き取り、その働きを自己のイメージや感情と関連づける学習です。ICTの活用とグループでの取り組みによって、主体的・協働的な学びを目指します。

授業の流れ

学習の内容・学習活動	
導入	〇Flat for Educationで五線譜の読譜を復習する。 〇『浜辺の歌』を全員で歌唱する。
展開	〇『浜辺の歌』のアレンジAの曲想を感じ取り、イメージをもつ。 ・長調と短調による曲想の違いと、それによってもたらされる自己のイメージ（感情） ・学習プリントに提示された顔の絵文字から、感じ取った曲想にふさわしいものを選ぶ。 〇アレンジB、Cの曲想を感じ取り、イメージをもつ。 ・音の高さ、速度による曲想の違いと、それによってもたらされる自己のイメージ（感情） ・各自で再生できるように配布された学習スライドを用いて、個人の思考の流れに応じて学習を進め、それをもとにグループで意見を共有する。 【アレンジ版の概要】 A：旋律（調）→短調 B：旋律（音の高さ）→2オクターヴ高い、速度→約1.5倍速 C：旋律（調）→短調、旋律（音の高さ）→2オクターヴ低い、速度→約0.5倍速
まとめ	〇学習のまとめをする。 ・音楽を形づくっている要素（旋律、速度）と、曲想や自己のイメージ（感情）との関わりを感じ取る。 ・統計的に表されたGoogle フォームの回答を見ながら、クラス全体で意見を共有する。

音楽のイメージを大切に ――これまでの学びとこれからの学びとをつなぐ工夫

安心感がもたらす活気

菅：生徒たちのとても積極的に授業に参加している様子が印象的でした。先生は今年度からこちらの学校に赴任されたと伺いましたが、4月からこういう雰囲気だったのでしょうか？

佐々木：4月当初はやはり緊張している感じでしたが、1年生は宿泊行事で自然教室に行って仲間づくりを経験したり、体育祭で一致団結して応援歌を歌ったり、いろいろな学校行事を通して打ち解けていったようです。

菅：生徒が非常にのびのびとその場で思ったことを発言しているようですが、こういった姿を引き出すために先生が日頃から気を付けていらっしゃることはありますか？

佐々木：音楽の授業では、積極的に間違えようという姿勢を大切にしています。例えば、『浜辺の歌』を最初に歌うときも、音程やリズムなどいっぱい間違えていいから、間違えた後どうしたらいいかを考えようと伝えています。また、周りも間違えたと言って笑ったりばかにしたりすることなく、いっぱい

間違えられる雰囲気にしようとも言っています。

菅：安心感が醸成されることでこんな明るい雰囲気になるのですね。コロナが明けて授業の取り組みとして変わったことはありますか？

佐々木：変わったといえば、マスクの着用が任意になって外す生徒が増えたことです。ただ、1年生は小学生のときからマスクをしている状態があたりまえで育ってきているので、マスクを外してみんなで歌うことの爽快感を知らず、よさを感じられていないかもしれないですね。外すのが恥ずかしいという感覚がなかなか抜けないようなので強制はしませんが、少しずつ取り除けていけたらいいなと今は思っています。

言語化の壁に向かって

菅：本日の授業はいわゆる「曲想と音楽の構造との関わりを理解する」ということだと思います。先生が音楽の一部をアレンジして演奏し、それによって曲想が原曲とどのように変わるかを生徒に聴き取らせていましたが、このよ

うなことは他の曲でもふだんからされていますか？

佐々木：特に1年生の創作の授業に入る前にすることが多いです。新たな曲というよりは、生徒たちが知っていたり、学んだりした作品で、すでに何らかのイメージをもっている曲を変えてみます。私がよく扱うのは校歌ですね。校歌を少しアレンジしてみて、それがよいとか悪いとかではなく、原曲とどう違うのか、どんな特徴があるのかをみんなで考えます。

菅：今回の授業では「音の高さ」「速度」「調」の3つの要素を取り上げていましたが、この3つを選んだのはなぜでしょうか？

佐々木：今回は生徒の実態に応じて選択しました。今のところ、音楽の特徴がどう変化したのかに着目できている生徒が少なく、速度など比較的变化が分かりやすいものがよいかなと。また現在、合唱コンクールに向けて少しずつ取り組んでいく中で、声の高さがソプラノ、アルト、男声に分かれるという話をし、音の高さに注目したので、それが結び付いたらいいなと思いました。いろいろ試作する中で、拍子や音色を変化させることも考えましたが、どう違うのかを言葉にできるまでには、今後の勉強を経てということが必要と判断しました。

菅：言語化するところにはまだ課題があるということですね。ここから先、その部分はどのように指導されていけますか？

佐々木：聴いたことを文章で書くときに、抵抗まではいかないにしても、どう書いたらいいのかが分からない場合があるので、まずは「書く」よりも「話す」ことを実践しています。話すことは書くよりもハードルが低いと感じる生徒が多いようなので、音楽を通して



『浜辺の歌』のアレンジ版の旋律を聴いて自己のイメージを考える

感じたことや気付いたことを話して、それを繰り返すうちに、話したことをまとめて書いてみよう、というふうになればいいなと。話すことと書くことをうまく連携させながら指導していきたいと思っています。今回は少し工夫して顔の絵文字で感情を判断する項目を入れてみました。

菅：生徒たちが直感的に分かるように工夫されたんですね。また絵文字の解釈も個人差があってもおもしろく、その部分で対話が活性化されているように感じました。

これからの学びへの橋渡しとして

菅：『浜辺の歌』の題材目標は「情景を思い浮かべながら、表情豊かに歌おう」ですが、本時（4時間目）はこの目標の中に位置付けられたものなのか、それとも独立して置かれているものですか？

佐々木：3時間目までにこの曲の目標はある程度達成して、本時はプラスα的な位置付けですね。4時間目というよりは、今まで勉強してきたこととこれから学ぶ曲や出会う曲との橋渡し、足がかりの時間として行っています。

菅：この曲の表現の工夫においてよく取り上げられるのが、波のような旋律形や8分の6拍子についてですが、それらをどのように生かして歌うかということはこれまでの授業でされましたか？

佐々木：実は本時の前に行う予定だった3時間目のことがまだできていなくて。

夏休みの間に海に行ってみたりとか、海に行けない人はいろいろな海の動画などを見たりして、自分だったらこんな海辺でこんな散歩をしたいなという思いを込めて、動画を撮るというのを夏休みの課題にしようと思っていました。せっかくなので、想像の海だけではなく、できるだけ自分の実体験で、浜辺に行ったときの思い出とかを歌にできたらいいというのがあり、あえて3時間目は置いておきました。

菅：今日の授業で取り上げていた、「速度の設定が歌の印象に影響を与える」ということにもつなげられそうですね。

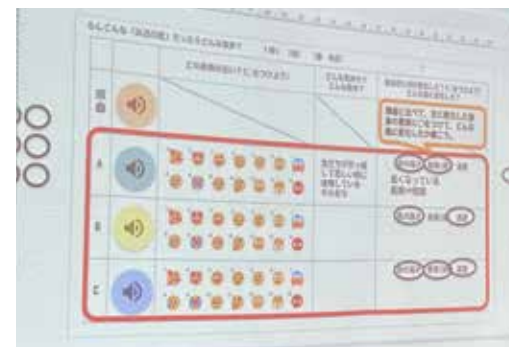
佐々木：そうですね。どんなイメージの『浜辺の歌』にしたいか、そのために必要な工夫をそれぞれが書き、おすすめポイント的に作品に添えてもらおうと考えています。

音楽との出会わせ方を大事にしたい

菅：先生は歌唱表現の授業をされると



聴き感じ取った内容をグループで話し合う



学習シートに自分の考えやグループの意見を書き込む



Flat for Educationで学習する

きにどのようなことに気を付けていらっしゃいますか？

佐々木：曲との出会わせ方に気を配って、大切にしたいと思っています。音程や発声ももちろん大事ですが、まずはその曲のイメージや、作者がどんな思いでこの曲をつくっているのかということが重要だと思います。『浜辺の歌』に関していうと、海に行ったことがない生徒も中にはいて、写真や動画でしか見ていないのに、海のイメージってなかなか難しいですね。海にも極寒の海もあれば常夏の海もあって、じゃあこの曲で作者がイメージした海ってどんなのかなということをもまずは共

有しています。作者のイメージや思いを考えていく中で、ふだんの何気ない幸せやこの曲の価値みたいなものに、生徒たちが少しずつ気付き始めたら歌っていこうと。

菅：実感として音楽のイメージがある程度分かる状態から始めていくということですね。

佐々木：そうですね。初めにその曲に対するイメージをもって歌うと、いきなり歌うよりもさらに感情移入して歌うことができます。そこから学習していく中で、自分だったらどんなふうに関係を散歩したいかなと、少しずつ自分なりの工夫につなげられたらいいな

と思います。

菅：自身の経験などと結び付けて、さらにイメージを広げていくのですね。

佐々木：ただ、イメージばかりを先行させるのではなく、まずは音楽から出会わせるようにしています。作者の思いや感情を中心に考えすぎると国語の授業と同じになってしまうので、あくまで音楽が主体でイメージをさせていくというように配慮しています。

ICTを活用して 楽譜との親しみを、 他者との相互理解を

菅：先生の授業で特徴的なことにICTを積極的に活用されていることがありますが、最初のクイズで使用されていた、Flat for Educationとはどういうものですか？

佐々木：これは音楽学習に特化したプラットフォームで、今日やったのは音の高さや音名を答えるドリル形式のものですが、楽譜作成のようなこともでき、創作の授業でも使うことが多いです。私がよくするのは、あえて楽典的なことを最初から教え込まずに、今日のようなクイズ的なことをやったり、五線譜に何でもいからとりあえず音符を打ち込んでみたりしながら、まずは慣

れさせます。そう思うようにできないところが出てくるので、なぜうまくいかないのかを引き出しながら、少しずつ小節の決まりや音符の種類などを教えていきます。創作においてこういうICTを使うと、よくも悪くもすぐに打ち込んですぐに消せるし、小節に入る音符の数とかも自動で決められていて、打ったら音も出るので、直感的に進めることができます。そこに関してはすごく効果があるなと思います。

菅：つくったものをその場でお互いに共有できるというのも効果的ですね。使ってみて生徒の反応はどうですか？

佐々木：五線譜は見るものという意識だったのが、自分で書けるものになっちゃって、最初は楽譜が苦手だった生徒も抵抗なくなっているように感じます。自分で作品をつくって持ってきたり、既存の曲を耳コピで打ち込んでみたり、それがおもしろいと言いきたりします。生徒によっては合唱のパート練習用楽譜を作ってきてくれて、それを流しながらみんなで練習とかもします。音楽の示し方は五線譜だけではないと思いますが、例えば、好きなアーティストの曲を弾いてみたいとなったら、五線譜で書いてあるものが多いので、少しでも生徒たちが楽譜というものに抵抗なく、親しんだ状態で中学校を卒業してほしいと願っています。今後生徒たちの出会う音楽が五線譜を読めないことによって断たれてほしくないというもあり、継続して活用しているところです。

菅：スプレッドシートに「学びの軌跡」というのを記録として残していますね。あれはどういったねらいがあるのでしょうか？

佐々木：自分自身の学びが集約されたシートというのを目指しています。毎時間紙の学習シートに書いて1枚ずつファイルにも綴じますが、私としては、パッ

と一瞥で見たときに自分が学んだことが前の時間だけではなく、かなり前を遡っても結び付いて、今回に生かせたと気付いてほしいというねらいがあります。

菅：Google フォームを使って回答の共有をされていましたね。あれも非常にユニークだなと思いますが、どのような目的で使われていますか？

佐々木：他の人がどんなふう考えているのかを視覚化できたらいいなと思います。Google Classroom上の質問機能を使うと、生徒たちが打ち込んだものを一瞥で見ることができ、こちらが意図的に指名することもできます。だいたいどのクラスも発表する生徒が固定化される傾向にあるので、授業中の発言が少ない子など、できるだけいろいろな意見を拾い上げて、最終的にみんな違ってみんないいという方向につなげていきたいと考えています。それは生徒たちの相互理解につながっていくし、音楽を通しての意見なので、

音楽に対する理解も深まるかなと思っています。

菅：今までの紙の学習シートでもそういうことはされていたと思いますが、より効率的にできるということですね。とにかく生徒たちの生き生きとした姿がすてきだなと思って拝見しました。先生も非常に楽しそうに対応されていて、生徒たちは音楽室に来るのが楽しみになっているんじゃないかな。

佐々木：ありがとうございます。そうであつたらうれしいです。

菅：大学の授業にも参考になることがたくさんありました。ありがとうございました。



Google フォームの回答を皆で共有しながら考えを深める

校長先生より

本校がコミュニティ・スクールを始めて約20年が経ちます。その間、地域とともにある学校づくりを進め、生徒たちは積極的に地域と関わってきましたし、地域の方々の力もたくさんお借りして教育活動を行ってまいりました。ですので、生徒たちには自分が住んでいるこの地域を愛してほしいです。また、これからの社会では自分で未来を切り開いていくことが必要になっ

てきます。そのためには自分で物事を考え、やりたいことを決めていくことのできる主体性や、そのことに責任をもつ自律性が大切になります。そのような生徒たちを本校が育てる生徒像として示しております。

大津圭介 先生
春日市立春日西中学校 校長



○菅 裕(すが・ひろし)
宮崎大学 教授



○佐々木保高(ささき・やすたか)
春日市立春日西中学校 主幹教諭

Spring Seminar

スプリングセミナー 2024

新作合唱曲による公開講座

教育芸術社の主催する「スプリングセミナー」では、2013年にスタートしてから毎春欠かさず新曲をお届けしています。

コロナ禍での動画配信開催や、今年の10周年記念スペシャルコンサートを経て、11回目となる2024年は、5年ぶりの通常開催となります。

今号では、スプリングセミナー特集として、装いも新たにスタートする2024年のご紹介と10周年記念として行われた2023年の振り返りをお伝えいたします。

ご案内

2024年3月26日(火)
会場：東京音楽大学TCMホール
(中目黒・代官山キャンパス)

出演者
〈司会〉 藤原規生
〈作曲家〉 同声合唱：西下航平、名田綾子
女声合唱：根岸宏輔、鶴見幸代
混声合唱：旭井翔一、上田真樹
〈合唱団〉 八千代少女少女合唱団(長岡亜里奈 指揮)
おうたや(田中エミ 指揮)
ユースクワイア アルデbaran
Youth Choir Aldebaran (佐藤洋人 指揮)

最新情報は弊社ウェブサイト及びスプリングセミナーのFacebookで随時公開いたします。



ウェブサイト
<https://www.kyogei.co.jp/spring-seminar>



Facebook
<https://fb.me/kgspringseminar>

内容は予告なしに変更となる場合がございます。

新しい作曲家のみずみずしい作品をご紹介します！



西下航平(にしした・こうへい)



根岸宏輔(ねぎし・こうすけ)



旭井翔一(あさい・しょういち)



名田綾子(めいだ・あやこ)



鶴見幸代(つるみ・さちよ)



上田真樹(うへだ・まき)



藤原規生(ふじはら・のりお)

国立音楽大学声楽学科卒業。ヴァチカン国際音楽祭では2017年より西本智実指揮、イルミナート合唱団の合唱指揮を務め、2019年はサンビエトロ大聖堂での《ローマ法王代理ミサ》で、グレゴリオ聖歌「オラショ」指揮を担当。国立音楽大学ならびに同附属高等学校・洗足こども短期大学講師、日本合唱指揮者協会副理事長、一般財団法人オペラアーツ振興財団事務局長。

開催を終えて

スプリングセミナー2023 10周年記念 スペシャルコンサート

このたび10回目を迎えた2023年のセミナーは、動画配信で初演した「スプリングセミナー2021」「スプリングセミナー2022」の全12曲を、コンサート形式でお届けいたしました。

4年ぶりの対面開催となった本セミナーには11名の作曲家が会場に勢ぞろいし、司会者、作曲家、各合唱団と指揮者による充実したコンサートとなりました。さらに、当日はなんと世界的指揮者の広上淳一先生がサプライズ登場。会場全員で『花』(滝 廉太郎 作曲)を合唱しました。

また、バリトン歌手の宮本益光さんと三宅悠太さんが書き下ろした新作同声合唱曲『ことばを追いついて』の発表や、信長貴富さんによるワークショップ『ハミングのためのエチュード』も行われ、あらためて一緒に歌える喜び、その音楽を全身で味わうことのすばらしさを認識できる内容になりました。

本セミナーにご来場いただいた方々、またご興味をおもちいただいた方々、そしてご協力くださった多くの方々に厚く御礼申し上げます。

スプリングセミナー 2024に向けて

2013年3月の第1回開催から10年、スプリングセミナーは11年目となる2024年3月に新たなスタートを迎えようとしています。

10年の歳月を積み重ねることができたのは、ひとえに新作を書き下ろしてくださった作曲家の方々、実行委員会のスタッフ、そして全国から時間を割いて東京まで足を運んでくださった、すべての人たちの思いの結集によるものと思っています。その思いには、希望やひらめきがあり、新たな可能性の発見や出会いがたくさんありました。ここであらためて、本セミナーが「スプリングセミナー」という名称であることに感慨を覚えます。「スプリング」という言葉の響きには、出会いと別れ、真新しいことへの期待、それらが繰り返されていくエネルギーが感じられます。コロナ禍によって合唱活動は図らずも大きな影響を受けましたが、今こそ新しい発想力をもって、児童生徒に合唱のすばらしさを伝えていかなければならないと感じています。

「スプリングセミナー2024」に参加してくださる作曲家6名が決定し、「新しい何かが生まれる春が、必ず訪れる」という思いが強まりました。すでに合唱作品に実績のある方、若く進取の気性に富んだ方々が、熱のこもった新作の数々を届けてくださることでしょ。

スペシャル・プログラム

「スプリングセミナー2023」にて初演した同声合唱曲『ことばを追いついて』(宮本益光 作詞／三宅悠太 作曲)の混声合唱版初演を予定しています。

スプリングセミナー 2023

出演者 〈司会〉 藤原規生
〈作曲家〉 同声合唱：アベタカヒロ、大熊崇子、信長貴富、横山裕美子
女声合唱：土田豊貴、横山潤子、山下祐加、大田桜子
混声合唱：三宅悠太、木下牧子、なかにしあかね
〈合唱団〉 八千代少女少女合唱団：長岡亜里奈(指揮)、相澤ますみ(ピアノ)
おうたや：田中エミ(指揮)、前田勝則(ピアノ)
TCMスペシャル・コーラス：松井慶太(指揮)、前田勝則(ピアノ)
開催 2023年3月28日(火) 東京音楽大学TCMホール

※「スプリングセミナー2023」では指導のポイントの紹介及びNコン課題曲のワンポイントレクチャーは実施しておりません。

「スプリングセミナー2023」で演奏された各作品の楽譜は、『オリジナル合唱ピース』として販売中です。また、音源は音楽配信サイトでご視聴いただけます。詳しくはスプリングセミナー特設ページをご覧ください。

<https://www.kyogei.co.jp/spring-seminar/archives.html>



『花』を指揮する広上淳一先生



八千代少女少女合唱団(長岡亜里奈 指揮)



おうたや(田中エミ 指揮)



TCMスペシャル・コーラス(松井慶太 指揮)

音楽診断

Kyogei
Presents

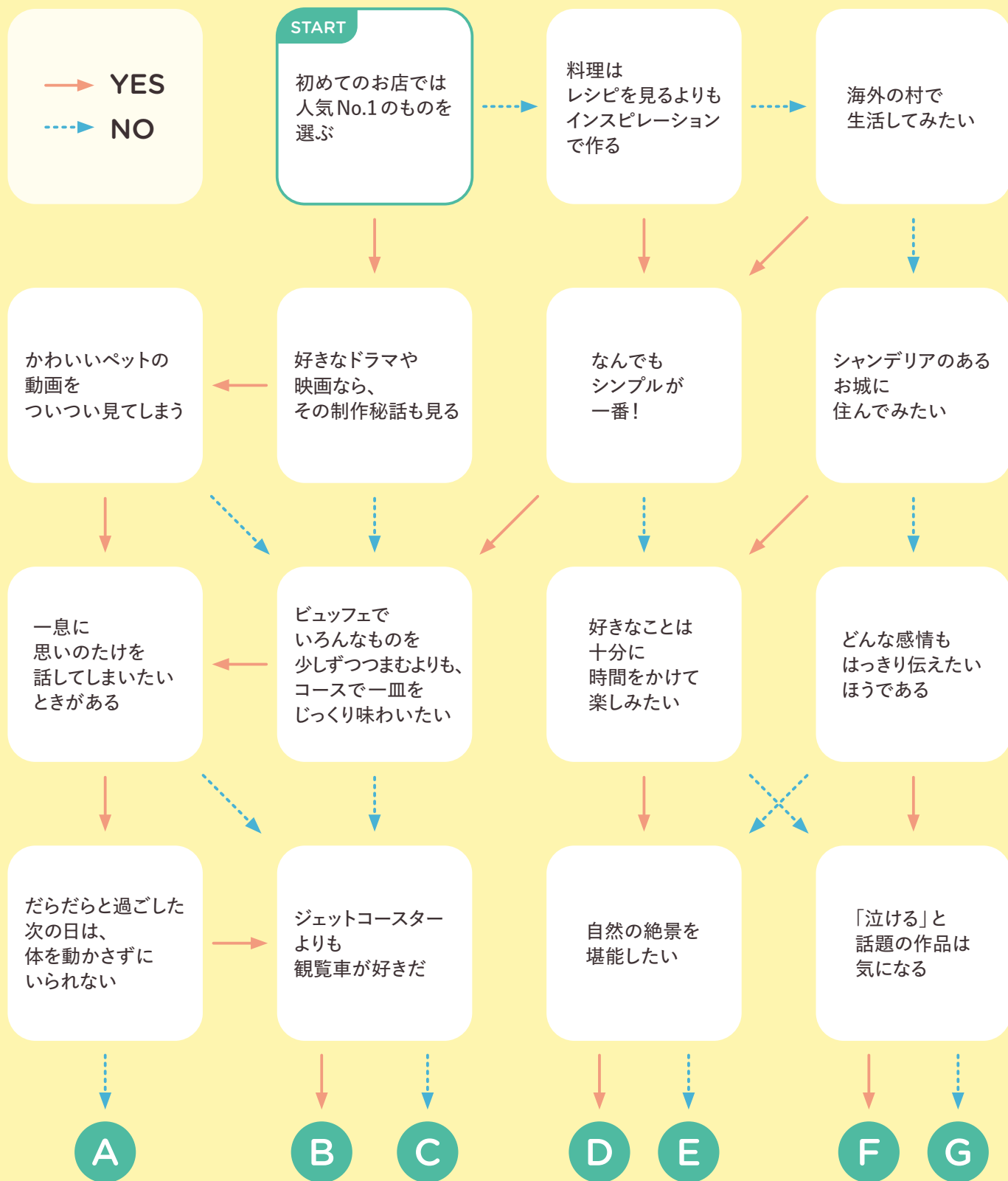
第18回 交響曲の緩徐楽章編



『ヴァン』オリジナルでお届けする音楽診断企画の第18弾のテーマは交響曲の緩徐楽章です。7曲の中から、あなたにおすすめの作品をご紹介します。



監修・解説＝山田治生 Text＝Haruo Yamada



交響曲の 緩徐楽章について

あなたにおすすめの作品は？

A 妻への愛が込められた名曲 マーラー『交響曲第5番』第4楽章 (初演：1904年／ケルン)

マーラーの『交響曲第5番』は、壮かつドラマティックで、彼の残した交響曲の中で人気の高いものの一つ。弦楽器とハープのみによって演奏される第4楽章は、「アダジェット」としてしばしば単独でも取り上げられる。ゆったりとしたメロディーと高揚。ヴィスコンティ監督の映画『ベニスに死す』で使われたことによって、広く知られるようになった。



C 憂愁の音色に魅了される ブラームス『交響曲第3番』第3楽章 (初演：1883年／ウィーン)

ドイツの作曲家ブラームスは、4つの交響曲を残しているが、第3番は、4つの中で最も演奏される機会が少ないかもしれない。しかし第3楽章は、映画『さよならをもう一度』で使われたことでも知られ、冒頭にチェロが奏でるロマンティックな旋律で高い人気を誇っている。真ん中の部分では夢見心地の音楽となる。



E 劇的な展開が心を揺さぶる大曲 チャイコフスキー『交響曲第5番』第2楽章 (初演：1888年／サンクトペテルブルク)

チャイコフスキーは、ロシアを代表する作曲家。『交響曲第5番』は、昔なら映画『オーケストラの少女』、最近ならドラマ『リバーサルオーケストラ』で使われていたことでも知られる。この曲の第2楽章は、ロシアの哀愁が凝縮されたような音楽。夢見るような美しいメロディーがホルンや弦楽器によって奏でられる。



G 祖国の大自然を自由な形式で描く ドボルザーク『交響曲第8番』第2楽章 (初演：1890年／プラハ、プラハ国立歌劇場)

チェコの代表的な作曲家ドボルザークの交響曲では、アメリカで作曲された第9番「新世界より」が最もよく知られているが、第8番は、彼が祖国チェコで書いた最後の交響曲であり、とてもボヘミア色の濃い音楽となっている。第2楽章もボヘミアの深い森を連想させる美しい音楽であり、とりわけ弦楽器の奏でる旋律が感動的。



※高等学校の教科書では、ドヴォルジャークと表記します。

B 甘くせつないメロディーに心打たれる ラフマニノフ『交響曲第2番』第3楽章 (初演：1908年／サンクトペテルブルク、マリインスキー劇場)

今年が生誕150周年にあたる、ロシア出身のラフマニノフは、作曲家であると同時に20世紀前半を代表するピアノの名手でもあった。『交響曲第2番』は、彼の3つの交響曲の中で最も有名なものであり、第3楽章に出てくるロシアの哀愁を感じさせる旋律には、メロディー・メイカーとしてのラフマニノフの才能がよく表れている。



D 安らぎに満ちた至極の音楽 ベートーヴェン『交響曲第9番』第3楽章 (初演：1824年／ウィーン、ケルトナートーア劇場)

ベートーヴェンの交響曲の中で最も知られている緩徐楽章は、「第九」の第3楽章に違いない。第3楽章は、「アダージェット エ カンタービレ (非常に緩やかに、そして歌うように)」と指示されているように、とてもゆったりとしていて歌に満ち、ヴァイオリンの奏でる美しい旋律が楽園のような安らぎを与えてくれる。



F 謎に包まれた美しき傑作 シューベルト『交響曲第7番「未完成」』第2楽章 (初演：1865年／ウィーン)

シューベルトは、ウィーンを代表する作曲家。31歳で亡くなったが、数多くの歌曲や、室内楽曲、交響曲に傑作を残している。『交響曲第7番「未完成」』は、第3楽章の途中まで作曲されてそのままになってしまったので、このニックネームがある。第2楽章は、天国のような美しい音楽であり、これで交響曲を閉じても十分な充実感がある。



山田治生 (音楽評論家)

1964年、京都市生まれ。1987年、慶應義塾大学経済学部卒業。著書に『トスカニニ 大指揮者の生涯とその時代』、小澤征爾の評伝である『音楽の旅人ある日本人指揮者の軌跡』、『いまどきのクラシック音楽の楽しみ方』(以上、アルファベータ)、編著書に『戦後のオペラ』(新国立劇場運営財団情報センター)、訳書に『レナード・バーンスタイン ザ・ラスト・ロング・インタビュー』(アルファベータ)などがある。



研究大会

10月 October

26日(木)・27日(金)

令和5年度 全日本音楽教育研究会全国大会
(小・中学校部会大会・高等学校部会大会)
富山大会

第18回東海北陸小中学校音楽教育研究大会
富山大会

富山市芸術文化ホール(オーバード・ホール) 他

〈大会主題〉
つなぐ 深める ひびき合う ～豊かな音楽の学び～

[問い合わせ]
富山市立光陽小学校 教頭 土井和哉
〒939-8211 富山市二口町1-4-1
TEL 076-425-2277/FAX 076-425-1700
doi-kazuya@toyama-city.ed.jp

11月 November

10日(金)

第65回北海道音楽教育研究大会 函館・道南大会
第49回道南音楽教育研究大会

函館市民会館 他

〈全道共通主題〉
音楽のよさを分かち合い 確かな力を育む音楽教育
〈函館大会主題〉
音楽で つながり ひろがる 心と学び
～なるほど それもいいね!～

[問い合わせ]
第65回北海道音楽教育研究大会函館・道南大会準備委員会事務局
函館市立千代田小学校 教諭 立野恭子
〒040-0015 函館市梁川町23-4
TEL 0138-52-2518/FAX 0138-52-2517
tateno@hakodate-hkd.ed.jp

10日(金)

第65回近畿音楽教育研究大会 大阪大会
第66回小学校 第65回中学校
大阪府音楽教育研究大会南河内大会

ザ・シンフォニーホール 他

〈大会主題〉
心が動く 音楽の力 未来を拓く 音楽の学び

[問い合わせ]
第65回近畿音楽教育研究大会大阪大会事務局
大阪市立玉造小学校 校長 豊岡真実
〒540-0004 大阪市中央区玉造2-3-43
TEL 06-6941-1012
k0501@education.city.osaka.jp

16日(木)

第71回東北音楽教育研究大会 秋田大会
第59回秋田県音楽教育研究大会 中央地区大会

あきた芸術劇場ミルハス 他

〈大会主題〉
ひびきあう よろこび
～共に学び、音楽のよさを実感できる授業づくり～

[問い合わせ]
第71回東北音楽教育研究大会秋田大会実行委員会事務局
秋田市立四ツ小屋小学校 校長 石井麻貴
〒010-1417 秋田県秋田市四ツ小屋字街道東256-1
TEL 018-839-2050/FAX 018-839-2964
ishii-maki@edu.city.akita.akita.jp

17日(金)

第65回関東甲信越音楽教育研究会 長野大会
第72回長野県音楽教育研究大会

ホクト文化ホール(長野県県民文化会館) 他

〈大会主題〉
発見! 音楽のオモシロさ!
～音楽科における個別最適な学びと協働的な学びを通して～

※大会案内は随時こちらでご確認いただけます。
<https://nagano-kanonken.com>
(関音研長野大会HP)

[問い合わせ]
長野市立若槻小学校 長谷部直子
〒381-0084 長野市大字若槻東条810
TEL 026-295-6969/FAX 026-295-6948
naoko-hasebe-01@nagano-ngn.ed.jp

17日(金)

第54回中国・四国音楽教育研究大会 愛媛大会

松山市民会館大ホール 他

〈大会主題〉
伝え合おう 響き合おう 未来へつながる わたしの音楽

[問い合わせ]
中四国音研 愛媛大会事務局
松山市立三津浜小学校 教頭 和田和美
〒791-8051 松山市梅田町2-42
TEL 089-951-0804/FAX 089-951-4969
onken54ehime@gmail.com

21日(火)・22日(水)

第64回九州音楽教育研究大会 鹿児島大会
第61回鹿児島県音楽教育研究大会

宝山ホール(鹿児島県文化センター) 他

〈大会主題〉
あそぶ たのしむ ひらく そして生きる

[問い合わせ]
実行委員会 事務局
さつま町立宮之城中学校 教諭 宮永智洋
〒895-1803 薩摩郡さつま町宮之城屋地391
TEL 0996-53-0855/FAX 0996-53-0856
mtmajormvtpjjhs@yahoo.co.jp

kyogei 音楽教育セミナー

歌唱編

「9年間を見通した歌唱活動の広がり」

10月1日(日)10:30～12:20

講師 富澤裕先生(作曲家、合唱指揮者)

ゲスト 長谷部匡俊先生(作曲家)

高校編

「三線授業はうむしるむん! ～三線導入お助け講座～」

11月19日(日)10:30～12:20

講師 長谷部裕介先生
(神奈川県立相模原弥栄高等学校 教諭)

ゲスト 相模原弥栄高校 生徒

中学校編

「授業が変わる! 器楽から学びを広げよう」

12月3日(日)10:30～12:20

講師 齊藤忠彦先生
(信州大学教育学部 教授)
今井由喜先生
(渋谷区立渋谷本町学園中学校 教諭)

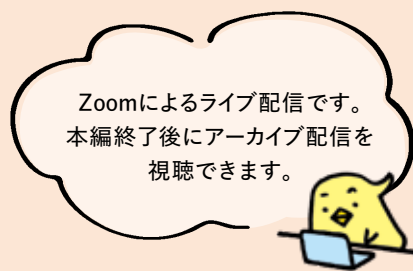
コーディネーター 長谷部匡俊先生(作曲家)

小学校編

「題材で育てる表現の深め方」

12月17日(日)10:30～12:20

講師 小梨貴弘先生(戸田市立戸田東小学校 教諭)
岩井智宏先生(桐蔭学園小学校 主幹教諭)



各回の詳細はホームページでご覧いただけます。
<https://www.kyogei.co.jp/online-seminar>

[お問い合わせ] 株式会社教育芸術社
kyogei 音楽教育セミナー実行委員会
TEL 03-3957-1170
onlineseminar@kyogei.co.jp



教育芸術社ホームページでは、
この他の研究大会やイベントなどの
情報も掲載しています。

https://www.kyogei.co.jp/data_room/event/

詳細は
こちら



編集後記

デジタル化により利便性が進む近年、ChatGPTなど私たちの生活や思考を大きく変えるようなものも開発されています。巻頭にご登場いただいた物理学者の大栗博司先生は、現在をよりよく、人間らしく生きるためには自ら考え判断することが重要であり、そのためにいろいろな“言葉”を話せるようになることが必要である、とおっしゃいます。“言葉”としてさまざまな物事に探究心をもち、自らの視野や表現を広げる大切さを深く感じる取材となりました。

「授業者に訊く」でご紹介した九州の2つの学校では、生徒の“イメージ”を大切にしており、そのことが生き生きとした歌唱につながっていることを、先生方のお話から知ることができました。

お忙しい中、取材や執筆、編集にご協力を賜りました全ての方に、心より厚く御礼申し上げます。今後ともご支援くださいますよう、お願い申し上げます。

表紙・巻頭イラストレーション
たかなかな

写真撮影
島崎信一 (STUDIO S+PLUS)
フォトライフ

写真提供
ABCフロンティア
藤原道山

イラストレーション
小澤一雄
ソリマチアキラ

表紙デザイン・本文組版
STORK

音楽教育 ヴァン 

発行者 株式会社 教育芸術社
(代表者 市川かおり)
〒171-0051 東京都豊島区長崎1-12-14
TEL. 03-3957-1175(代)
FAX. 03-3957-1174
<https://www.kyogei.co.jp/>
NexTonePB000054106号
©2023 by KYOGEI Music Publishers. ©-23
本書を無断で複写・複製することは著作権法で禁じられています。

*ヴァンは“vent”はフランス語で「風」。
新しい音楽教育の地平を切り開いていく
願いを込めています。



Recommend

New Song ライブラリー【同声編⑤】

小学生のためのクラス合唱新曲集 ぼくの風船

○入学式から卒業式まで様々な場面で歌える魅力的な22曲。作者によるメッセージを全曲掲載!

●定価1,650円(本体1,500円+税10%) / B5判 / 88ページ

●ISBN978-4-86779-002-1

準拠CD(別売り)

●価格3,080円(本体2,800円+税10%) / 1枚 ●GES-16004



小学校 学校行事・授業のための新教材集

ハッピーソング

○斉唱3曲、二部合唱7曲、器楽合奏3曲の全13曲を収録。授業や音楽会に最適な小学校向けの新しい教材集、待望のシリーズ第3弾!

○収録曲: ハッピーソング / ペガサス / 銀河鉄道999 / 他(全13曲)

●定価880円(本体800円+税10%) / B5判 / 56ページ ●ISBN978-4-87788-979-1

準拠CD(別売り)

○曲集に準拠した全13曲の範唱・範奏音源の他に、器楽合奏3曲のカラピアノ音源が収録されています。

●価格1,980円(本体1,800円+税10%) / 1枚 ●GES-15977

○歌唱曲のカラピアノ音源は、音源配信サイトからのダウンロードによりご購入いただけます。



中学生のための新しい教材集

天球図

○新作のアカペラ、混声二部、三部の合唱曲や、手拍子が主役の作品、ボディーパーカッション、机を楽器に見立てたリズムアンサンブル、小編成の合奏曲など、さまざまな演奏形態の作品を掲載しています。

○収録曲: 前に / 瞳をとじて見えるもの / 天球図 / 14 -fourteen- / 懐かしい未来 / Bodipa Beats Z / Desk Drumming -part 1- / Desk Drumming -part 2- / クラッピン グラブソディ第4番 / Brave Departure / We Are Confidence Man

●定価880円(本体800円+税10%) / B5判 / 56ページ ●ISBN978-4-87788-990-6

準拠CD(別売り)

●価格1,980円(本体1,800円+税10%) / 1枚 ●GES-15978



学習者用デジタルコンテンツ 小学生の音楽1~6

○GIGAスクールに対応! Chromebook、iPad、Windowsで使用できる! 音楽でICTの活用ができる、教科書に対応したデジタルコンテンツ集!

○提供方法: クラウド配信

●「学習者用デジタル教科書」+「学習者用デジタルコンテンツ」セット
1ライセンス 各学年価格1,540円(本体1,400円+税10%)

●学習者用デジタルコンテンツ [スクールパック 1年間版]
各学年価格11,000円(本体10,000円+税10%)



学習者用デジタルコンテンツ 中学生の音楽1/2・3上/2・3下

学習者用デジタルコンテンツ・映像資料 中学生の器楽

○「創作」の教材を中心に生徒一人一台のタブレット端末で利用できます。

○提供方法: クラウド配信

●「学習者用デジタル教科書」+「学習者用デジタルコンテンツ」セット
1ライセンス 各巻価格1,540円(本体1,400円+税10%)

●学習者用デジタルコンテンツ [スクールパック 1年間版]
各巻価格11,000円(本体10,000円+税10%)

●学習者用デジタルコンテンツ [スクールパック 教科書使用期間版]
各巻価格20,900円(本体19,000円+税10%)



小学校・中学校・高等学校教科書訂正のお知らせ



教科書及び指導書の訂正を当社ウェブサイトに掲載しています。誠に恐れ入りますが、ご確認のうえ、ご指導の際にはご留意くださいますようお願い申し上げます。

教育芸術社 LINE公式アカウント



ぜひお友だち登録
してください♪

はじめました!